

FIRST STEP

～「伝わる表現」を磨く～

より高く、より深く

— 表現の「質」を磨くステージへ —

前回のテーマは、まずは挑戦の一步を「始めること」でした。その一步を踏み出した皆さんは今、着実に技術の土台を築きつつあります。

今回のステップは、そこからさらに一步進んで、「相手に伝わる表現」の追求です。

保育検定は、単に手順を暗記する場ではありません。「目の前の赤ちゃんがどう感じるか」「どうすれば安心してくれるか」という想像力を、技術という形に変えて届ける。

その「心のこもった表現」こそが、保育者としての本質的な力になります。

「ただできる」から「想いが伝わる」へ。

合格の先にある、子どもたちの笑顔を思い浮かべながら、より高く、より深い学びを積み重ねていきましょう。

R8 検定（前期）申込状況

前年度比較（本校）

		3級	2級	準1級	1級
音楽	R7(前期)	23	6	—	—
	R8(前期)	16	9	3	2
造形	R7(前期)	24	3	—	—
	R8(前期)	14	3	6	1
言語	R7(前期)	18	3	—	—
	R8(前期)	12	6	6	1
看護	R7(前期)	19	3	—	—
	R8(前期)	8	6	6	4
合計	R7(前期)	84	15	—	—
	R8(前期)	50	24	21	8
	R7(前期)級申込	17	1	—	—
	R8(前期)級申込	9	3	3	—

※「合計」欄について：音楽・造形・言語・看護の4種目の合格実績を合算した「延べ人数」です。

※「級合格」について：4種目すべてに合格し、その級を完全に取得した人数を指します。

R8 年度（前期）検定申込状況：総括

受検者数は過去最多を更新！

延べ申込数は、昨年度の99名から**103名**へと増加しました。昨年度から始まった検定上位級への挑戦が、一時のブームではなく、本校の「新たな強み」として確実に根付いています。

「より高みへ」——上位級への早期挑戦がスタート！

昨年度は制度上、前期での受検ができなかった**準1級・1級に、延べ29名がエントリー**しました。特に家庭看護では、前期から早くも4名が1級に挑むなど、専門技術をより早い段階で極めようとする高い意欲が感じられます。

「2級」への挑戦者が大幅アップ

2級の申込数は、昨年度の15名から24名（約1.6倍）へと増加しました。3級の基礎を土台に、より実践的な技術を問われる2級へステップアップしようとする、2年生の積極的な姿勢が数字に表れています。

「まずは3級」から始まった皆さんの挑戦が、今、「上位級への挑戦」へと進化しています。高い目標を掲げた皆さんの「一步」を、今年も全力で応援します！

伝わる表現の3要素とは

検定はただの合否判定ではなく、保育者としての「実践的な態度」を育てるためのものです。ただ手順をなぞるのではなく、以下の3要素を「自然にできる」レベルまで高めましょう。

- ・ 声：大きさ・速さ・抑揚を使い分け、心の温度をのせる
- ・ 間（ま）：一呼吸おくことで、相手が理解する「時間」を作る
- ・ 視線：相手の目を見ることで、「あなたに話しているよ」という合図を送る
→ 自分が「伝える」から、相手に「伝わる」へ

合格する人の共通点（表現編）

合格をつかむ人は、自分の技術が「相手にどう見えているか」を客観的に捉えています。

- 明るくハッキリした声
- 早口にならず、聞き手に優しい速度
- 大事な場面で間を取っている
- 前（相手）を見ている

【先輩の一言】

○「“間”を意識するだけで、全体の雰囲気が一気にプロっぽくなった！」

今やること（実践ステップ）

「わかった」を「できる」に変えるためのトレーニングです。

- 同じ内容を2回連続でやってみる
- 1回目と2回目で「あえて変えた点」を確認（やってみて気づいた変化）
- 自分の表現のよくなった点を1つ言語化（記録する）

あの合格者も
やっていた！

表現編！その一歩先へ 分野別ワンポイント

～合格への道～

【音楽】

☑ 表情・強弱・姿勢

- ・表情で歌う：歌詞の内容に合わせて笑顔や優しさを表現。
- ・強弱をつける：音の強弱で、曲の物語を生き生きと伝える。
- ・音の黄金比：伴奏でメロディを消さないよう、左右の音量バランスを意識。

【造形】

☑ 配置・丁寧さ・片付け

- ・主役を際立たせる：テーマがひと目で伝わる配置（レイアウト）。
- ・プロの所作：道具を丁寧に扱い、製作中のゴミもこまめにまとめる。
- ・片付けまでが検定：製作後の整理整頓も、保育者としての評価対象。

【言語】

☑ 抑揚と「間」

- ・キャラを分ける：セリフごとに声色を変え、棒読みを卒業。
- ・「間」で惹きつける：山場の直前で一呼吸おき、ワクワク感を演出。
- ・顔で伝える：声だけでなく、適切な表情も交えて子どもと目を合わせるつもりで。

【看護】

☑ 声かけと連動

- ・沈黙を作らない：無言で処置せず、常に赤ちゃんへ安心感を与える声を。
- ・声と動きのシンクロ：動作と声かけを連動させ、スムーズな流れを作る。
- ・指先まで意識：爪が当たらないよう細心の注意を払い、常に安全を確認。

※上位級は筆記も難化します。早めの対策を！

📁 実践ミニワーク

自分の表現をアップデート！

1.今日の自分の課題は？

(例：早口になってしまう)

2.具体的にどう変える？

(例：句読点でしっかり一呼吸置き、やってみて気づいた変化をメモする)

⚠ よくあるつまずき（ここを変えれば「伝わる」!）

- 単調な読み → 喜怒哀楽に合わせて「抑揚」をプラス
- せかせか動く → 動作の合間に「一呼吸」入れる
- 下を向く → 相手と目が合うまで「顔を上げる」

【先輩の一言】

〇「前（顔）を見て笑いかけるだけで、自分の緊張もほぐれて印象もガラッと変わった！」

📁 特集：家庭看護技術を極める！

【正確な技術】に「安心感」をプラス

昨年度、本校が全級で合格率 100%を達成したのが「家庭看護」です。この強みをさらに伸ばす鍵は、**技術の根拠（なぜそうするのか）**を理解することにあります。

【「なぜ？」を知れば動きが変わる

「なぜこの角度で抱くのか」「なぜこの順で拭くのか」。一つひとつの動作にある意味を理解すると、迷いが消え、自然とスムーズな動きになります。

人形を「本物の赤ちゃん」として扱う

看護技術で最も大切なのは、**相手を大切に想う気持ち**です。手順を追うことに必死にならず、赤ちゃんが心地よいと感じる「丁寧な添え手」と「優しい声かけ」を意識しましょう。

筆記対策が「根拠」を支える

上位級では筆記試験も重要です。知識を深めることは、実技における「**判断力**」を支える土台になります。

💡 看護の重要ポイント（メモしておこう!）

- ・体温計の挟み方：脇の中心にしっかり当たっている？角度は？
- ・おむつ交換：足を高く上げすぎている？（股関節脱臼の予防）
- ・声かけ：「今から〇〇しようね」と目を見て言えている？

💡 今年度の戦略：何度も練習を「自分の味方にしよう」

Step 1：今の「表現」を、繰り返し練習して「安定した技術」へ

Step 2：本番を想定した「実践回数」を増やし、自信を深める

☑ 担当教諭より ～その「一歩」を、確かな力に変えるために～

「少し意識を変える」だけで、あなたの表現は驚くほど豊かになります。

昨日との違いを楽しみながら、変化を実感していきましょう。

📅 編集後記

- 鏡の前で、笑顔の練習をしてみよう
- 練習中、一度でも「子どもの顔」を想像できたら大成功！
- 今日の自分に「一歩進んだね」と声をかけよう

お知らせと注釈

- ・本文の保育検定各種目は「音楽」「造形」「言語」「看護」と略記しています。
- ・一部画像（「一歩」を象徴するシルエット等）は Google AI により生成したものを加工して使用しています。